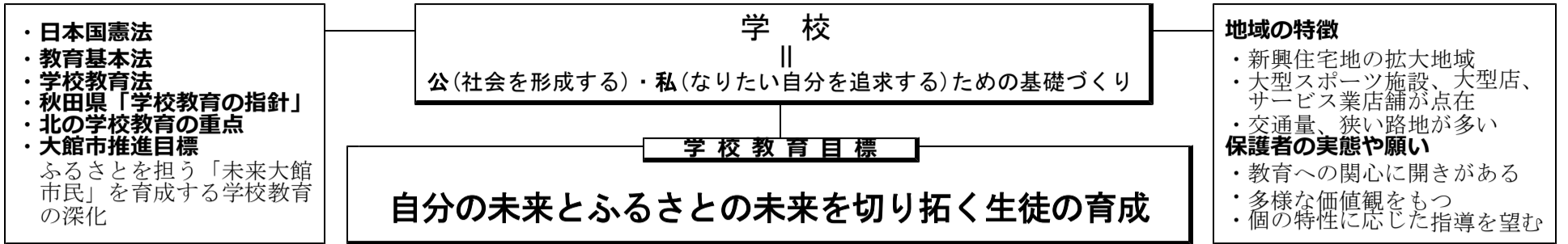


令和5年度 学校経営構想

大館市立東中学校



学校教育目標
自分の未来とふるさとの未来を切り拓く生徒の育成

【目指す学校像】

- 地域の中で愛され、ふるさとと共にある学校
- 東中三大自慢「あいさつ・歌声・東中太鼓」を掲げる学校
- 共感的協働力にあふれる学校

【目指す生徒像・校訓】

「立志」 志を立て、自ら高める生徒
「友愛」 仲間意識を高め、互いに磨き合う生徒
「剛健」 たくましさの中に優しさをもつ生徒

東中生のよさ <ul style="list-style-type: none"> ○素直で明るく人懐こい ○目標に向けて頑張ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○優しさがあり、男女仲良く協力して学習や活動に取り組める ○行事などへの集中力が高い ○集団を突き抜ける個の存在がある
東中生の課題 <ul style="list-style-type: none"> ◆困難なことへ挑戦するたくましさ不足している ◆規範意識が低く、ルールを守れない生徒もいる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆自己肯定感が低く、自信がもてない生徒が見られる ◆気持ちや思いを伝えられず人間関係でトラブルになる生徒もいる

東中生に身に付けてほしい力

ひ 人を理解し上手に関わる力(共生)
 が がまん強く行動する力(自律)
 し 将来を見つめ今を生きる力(挑戦)

学校経営のキーワード=生徒会テーマ
Accept (受け入れる) Try(挑戦する) Link(つなげる) ~個性が輝く学校へ~

具現化のための各指導部の目標と重点

研究部・学習指導部

◇未来を切り拓くために必要な学力を主体的に身に付ける生徒の育成

- | | | |
|---|---|--|
| (1) 共感的協働的な学び合いの共通実践 <ul style="list-style-type: none"> ①「鳳凰タイム」を通じた探究型授業の構築 ②「学び方の約束」「東中スタンダード」徹底 ③個に応じた家庭学習の継続と支援 | (2) 資質・能力を育む授業構想と展開 <ul style="list-style-type: none"> ①「見方・考え方」を明確にした授業構想 ②基礎的・基本的な知識及び技能の定着 ③諸検査やアンケートを基にした授業改善 | (3) 道徳の時間の充実 <ul style="list-style-type: none"> ①生徒間の対話・議論を大切に授業づくり ②学年ローテーションによる授業実践 ③道徳教育全体計画別業の活用 |
|---|---|--|

教務部

◇教育目標具現化のための教育課程編成と3指導部の調整

- ①「感動と達成感」につながる行事の企画
- ②活動を保障する時数管理と日課の工夫
- ③学籍資料、教育資料の管理

特活指導部

◇ふるさとを愛し、共に理解し輝き合う生徒の育成

- (1) 共感的協働力に支えられた人間関係づくりと所属感の高揚**
- ①横(学級・学年)のつながりの充実
 - ・短学活におけるエンカウンターや「Xさんからの手紙」の実施
 - ・定例の学年集会や合同朝の会の実施(月1回、朝の会の時間帯)
 - ②縦(全校)のつながりの充実
 - ・リーダーによる自治的な活動推進
 - ・先輩⇄後輩間のメッセージ(新入大会、太鼓伝承活動等)
- (2) ふるさとキャリア教育と地域貢献につながる体験活動の充実**
- ①校外とのつながり(地域連携)
 - ・大館の企業や人との関わり、子どもハローワーク、東中ボランティア
 - ・鳳凰ボランティア、企業とのコラボ等

生徒指導部

◇心と体を鍛え、よりよく生きる生徒の育成

- (1) 生活規律の共通理解と実践**
- ①「生徒指導共通実践マニュアル」の活用
 - ②安心・安全で美しい学校環境づくり
- (2) いじめ防止・不登校の予防、三機能を生かした生徒指導の展開**
- ①「今月の振り返り」の見取りと教育相談の充実
 - ②相談室・SC・関係機関の活用と連携
 - ③生徒指導主事と生徒支援担当を軸とした「報・連・相」とチーム対応
- (3) 小中連携・家庭連携によるライフスタイルの改善**
- ①メディア・コントロールへの取組
 - ②健康と体力の保持増進と課題への対応、感染症対策
 - ③地域移行を見据えた健全で適切な部活動指導

地域人材・組織の活用=自分の未来を切り拓く活動

- キャリア講話、企業訪問、職場体験、高校体験入学
- 子どもハローワーク

地域への展開・貢献=ふるさとの未来を切り拓く活動

- 東中ボランティア、大館きりたんぼ祭り
- 東中三大自慢「あいさつ・歌声・東中太鼓」の実践

支える教師像

- 豊かな人間性、確かな生徒理解、教育への情熱をもつ教職員
 - 研修と実践に励み、チームとして経営参画できる教職員
 - 職責遂行に努め、生徒・保護者・地域から信頼される教職員
- 【Team東中】**

支える家庭・地域像

- 安心・安全に生活できる家庭・地域
 - 優しく見守り、温かく声をかける家庭・地域
 - 学校と連携して生徒を育てようとする家庭・地域
- 【学校と生徒の応援団】**

自己評価 Aと外部 評価の評 価区分	きわめて良好	自己評価 Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対して100%達成
	良好		4	実現状況は良好で意識も高い／数値目標に対して80～99%以上達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対して60～79%以上達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対して40～59%
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対して39%以下の達成

ア
生徒の
状況

I 自主的・自律的な生活

生徒の状況	自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント	
仲間を大切にしながら、礼儀正しいあいさつと規律ある生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	良好	あいさつはできていると思われる。さらに向上させるためにも、あいさつの意味や意義を指導して欲しい。また、悩みを抱える生徒や保護者に、関係機関と連携しながら適切な対応を継続してほしい。
	後期			
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】 生徒質問項目2のあいさつについて、今年度は「誰が見ても」という文言を加えた。あいさつが相手目線であることを意識したことによって数値が下がったものと思われる。本校生徒はあいさつはしているが、「その場に応じた声」「表情」など相手目線で行うことを意識している生徒はまだ少ない。今後は、あいさつでは相手のために声や表情を意識させていきたい。そのために、一人一人が安心して自分を表現できるような環境にできるよう、学級経営や授業に励んでいきたい。また、時間や清掃への意識を高めることで、集団に対しての利他的な思いを高めたい。			
	【後期（→次年度）】			

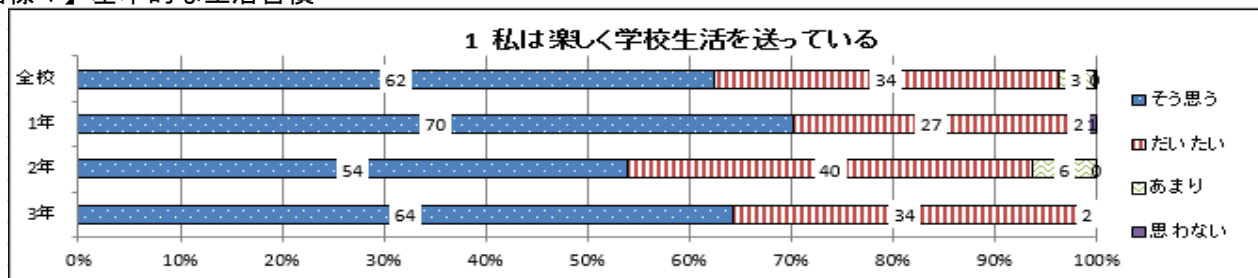
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 基本的な生活習慣	(1) あいさつや清掃など共通理解に基づいた指導	年間を通したあいさつ運動 清掃指導	3	
	(2) 自律的な学校生活	生活のきまりの厳守 時間の意識化(メディアコントロール)		
2 相談活動の充実	(3) 生徒指導の三機能を生かした指導	教育相談 人間関係づくりの推進	3	
	(4) 積極的な生徒理解と連携	毎月の振り返りアンケート 保健室・家庭との連携 SCや外部機関との連携		

【評価指標 1】 基本的な生活習慣

生徒

R4
3.62
↓

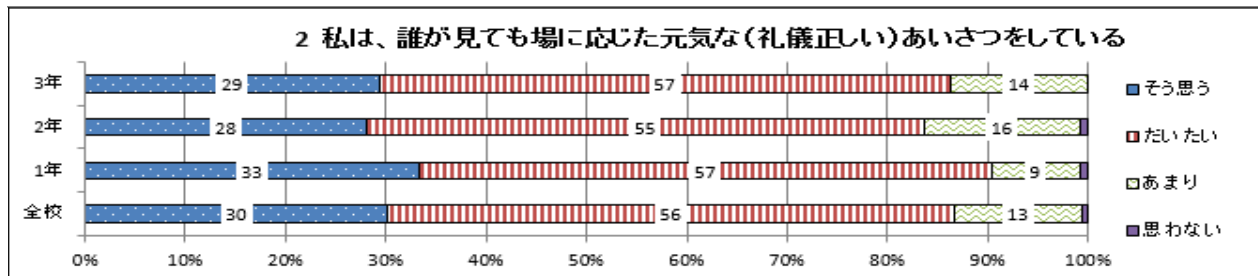
R5
3.58



生徒

R4
3.56
↓

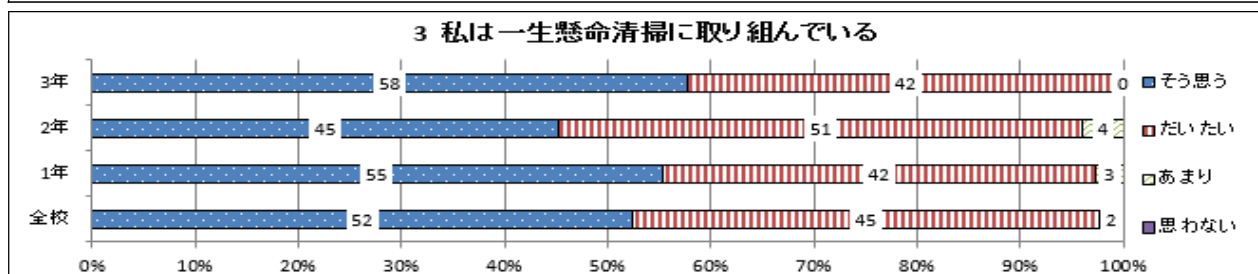
R5
3.16



生徒

R4
3.58
↓

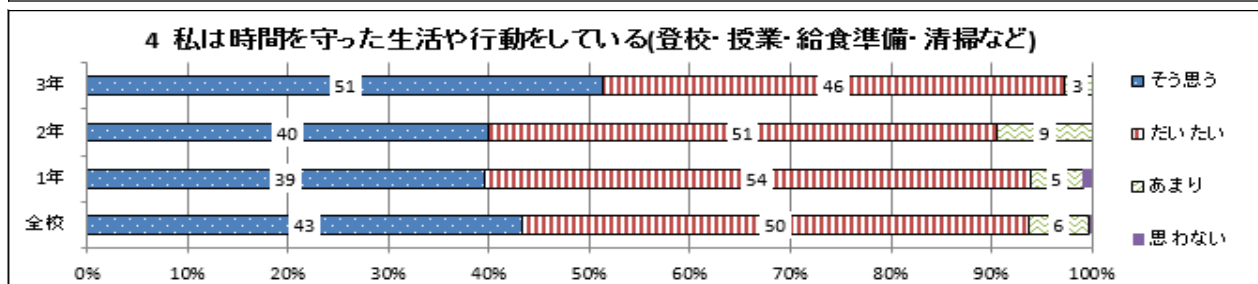
R5
3.50



生徒

R4
3.45
↓

R5
3.37

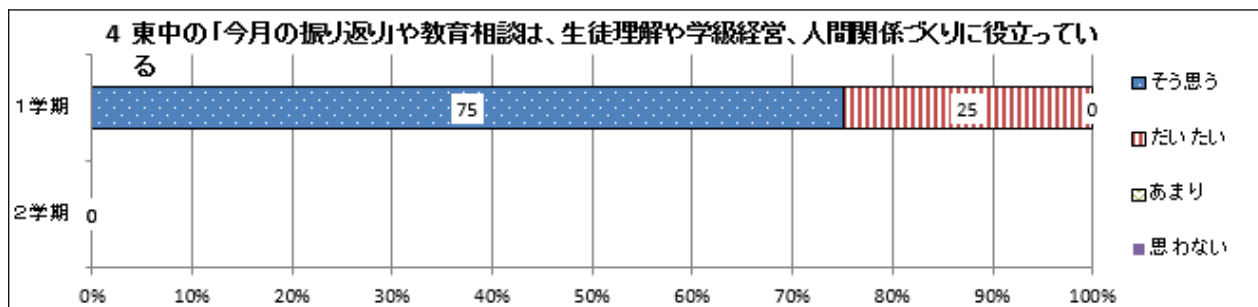


【評価指標 2】 相談活動の充実

教師

R4
3.63
↓

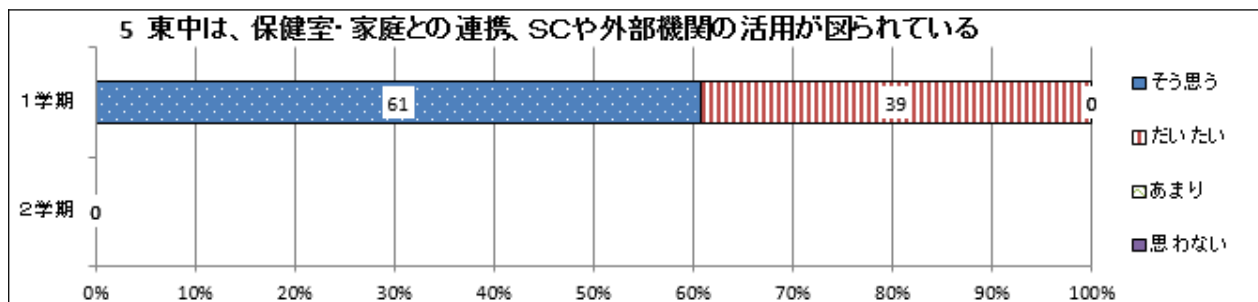
R5
3.75



教師

R4
3.63
↓

R5
3.61



Ⅱ 思いやりとたくましい心

生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
互いに認め合い、切磋琢磨しながら、一人一人がよさを発揮し、豊かな学校生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	良好	前期はボランティアの機会が少なかったための結果であり、後期は増えることを期待している。経験の少なかった生徒のモチベーションを上げる働きかけも必要である。
	後期			

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】豊かな体験活動については、生徒質問項目10において数値が昨年度よりも上昇した。コロナ禍が明け、制限無く教育活動ができるようになったことで、生徒の充実感につながったと思われる。しかし、生徒質問項目6、7については、昨年度比で数値が下がっている状況である。特に生徒質問項目7については、1学期中に職場体験や大館PRが行われたにも関わらず、結果が芳しくない。後期に向けては、各行事のねらいを明確化し、「生徒にどんな力を身に付けさせたいのか」「行事後に生徒がどのような姿であればよいのか」を考えながら、活動の計画立案に努めたい。

集団生活の向上についても、生徒質問項目5、8、9において、昨年度よりも数値が下がっている状況である。特に質問項目9については、減少幅が大きい。東中三大自慢に関わる行事が2学期に集中しているため、1学期の評価が低めになるのは例年通りの傾向ではあるが、今回のアンケート結果から、東中三大自慢に関しての生徒の意識が低下している現状があると捉える。2学期の各行事においては、前述の通り、ねらいを明確化し、生徒に達成感を味わわせられるような行事の計画立案を行うことはもちろん、次年度に向けては、年間を通して、生徒の意識向上が図れるような適切な行事設定を行う必要があると考える。

現在の中学生は、非常に多忙な毎日を送っている。その中で充実感、達成感を味わわせるためには、行事を増やすのではなく、やるべきことを精選し、コンパクトで効果のある行事をいかに設定できるかを我々が考えていかなければならないと感じる。

【年度（→次年度）】

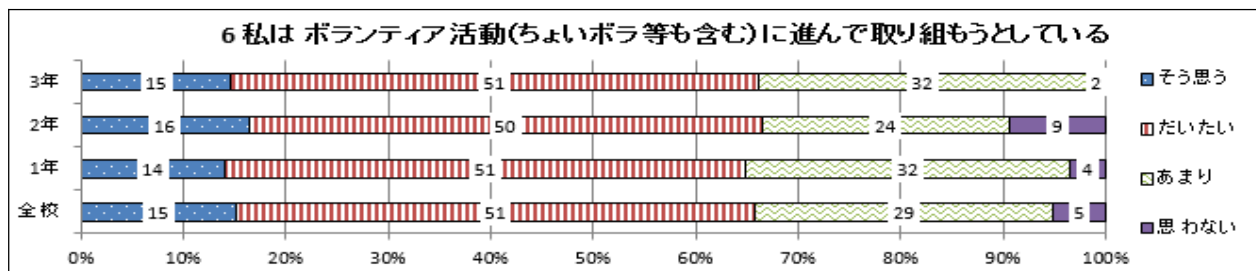
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 豊かな体験活動	(5) ふるさとに根ざし、自立の気概を育てる指導。地域、郷土愛の醸成	東中ボランティア、きりたんぼ祭りボランティア 子どもハロワークへの参加 職場見学、職業講話：1年生 職場体験学習、大館PR活動：2・3年生	3	
4 集団生活の向上	(6) よりよい生活や人間関係の構築	学校教育活動全体を通じた道徳教育 学級プログラム・係活動での一人一役 集会などの話し合い	3	
	(7) 共感的協働力を高める集団活動。愛校心の醸成	東中太鼓の伝承 心一つに響き合う歌声活動 学校行事や生徒会行事の充実		

【評価指標3】豊かな体験活動

生徒

R4
2.91
↓

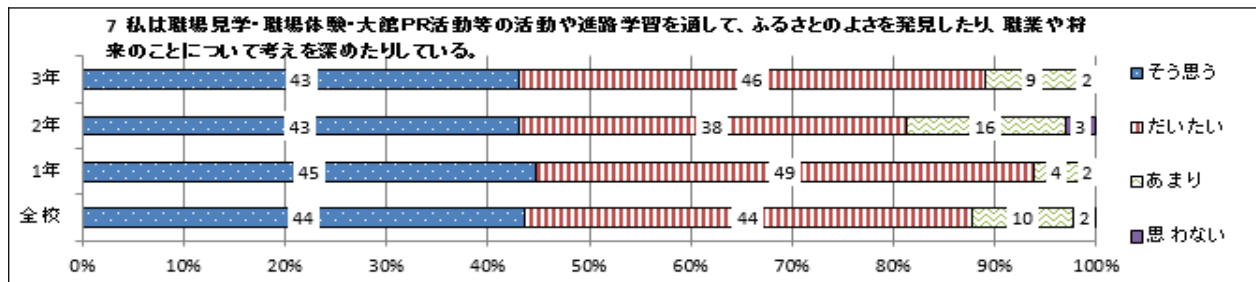
R5
2.76



生徒

R4
3.44
↓

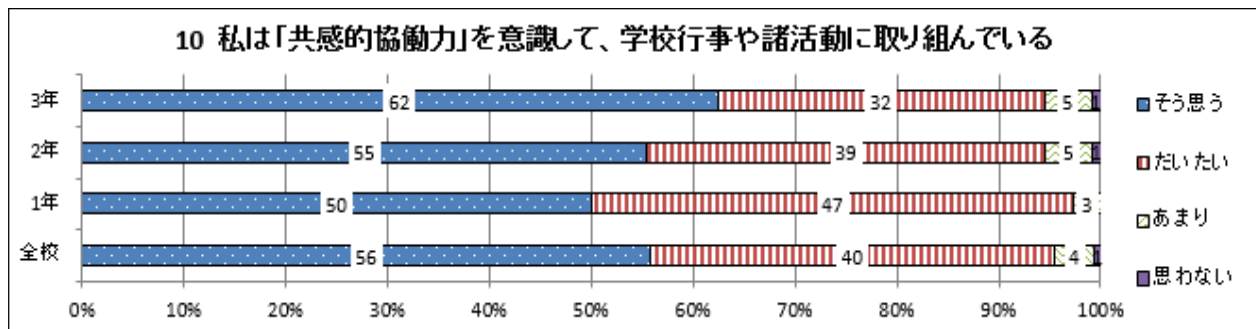
R5
3.29



生徒

R4
3.49
↓

R5
3.51

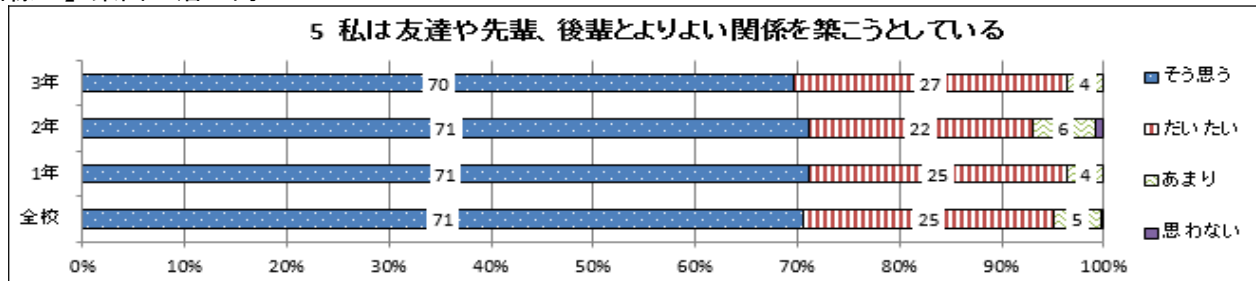


【評価指標4】集団生活の向上

生徒

R4
3.67
↓

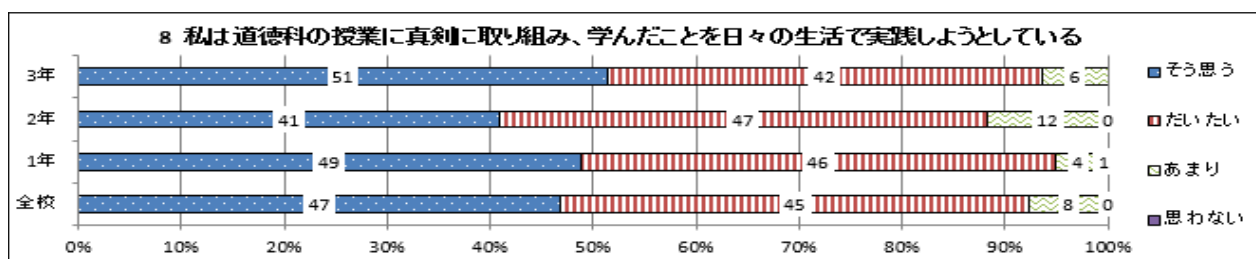
R5
3.66



生徒

R4
3.49
↓

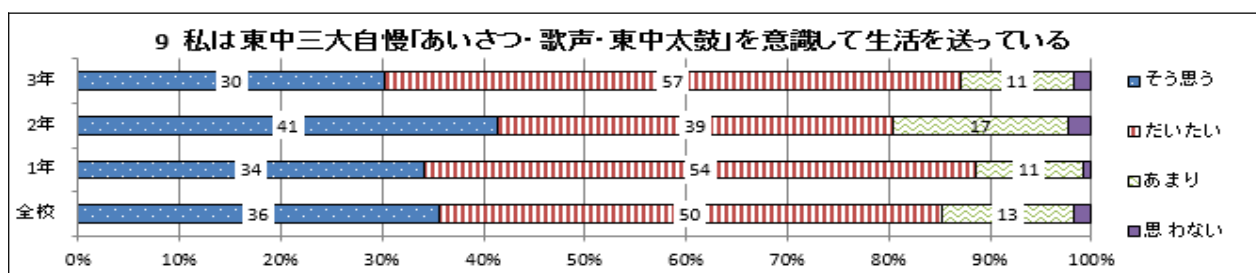
R5
3.38



生徒

R4
3.31
↓

R5
3.19



Ⅲ 基礎学力

生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付けている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	メディアコントロールについては、医学的なエビデンスに基づく指導が必要ではないか。また、生徒自身がタイムマネジメントすることが大切であり、スマホのモニター使用時間の可視化させ非生産的な時間を知らせることも必要と考えられる。
	後期			

自己評価の概要と学校の改善策

【前期（→年度）】
 生徒質問項目11では、全校の肯定的な意見が86%と多く、生徒が意識して授業に取り組んでいる様子が伺える。しかし昨年度よりも数値が若干下がった。これは、質問の内容が「学習ルール」から「東中学び方の約束(別紙参照)」に変わったことも影響していると考えられる。
 教師質問項目13「東中スタンダードを意識した授業」では教師全体の肯定的意見が96%、さらに数値も上がっている。これは教師が常に学習規律を意識して授業を行っていることが伺える。今後も節目節目に生徒と学び方を確認し、指導の徹底を図り改善していきたい。また、「そう思う」と回答した割合も昨年度より上昇している(昨年度は20%)。「そう思う」と自信をもって回答できる教師の割合がさらに増えれば、生徒の数値も上がると思われる。生徒が望ましい学習習慣を身に付けることができるように共通実践していきたい。

生徒質問項目12「家庭学習」に対するでは85%以上が肯定的な意見である。しかし、昨年度よりも数値が若干下がった。また、保護者質問項目8については肯定的な意見が67%と、生徒と保護者間で「家庭学習」に対する意識のズレが見られる。これについてはメディア使用が影響していると考えられる。生徒がより家庭学習に集中して取り組むことができるよう、家庭学習の題材や内容について生徒間で交流する機会を設定したり、より集中できる学習環境について家族で考える話題を提供したりしていきたい。

【年度（→次年度）】

評価指標	実践課題	主な取り組み	自己評価B	
			前期	後期
5 基本的な学習習慣	(8) 望ましい学習習慣の確立	東中スタンダードの定着と深化	3	
6 充実した家庭学習	(9) 効果的な家庭学習の支援	目的意識をもたせた家庭学習への支援	3	

【評価指標5】基本的な学習習慣

生徒

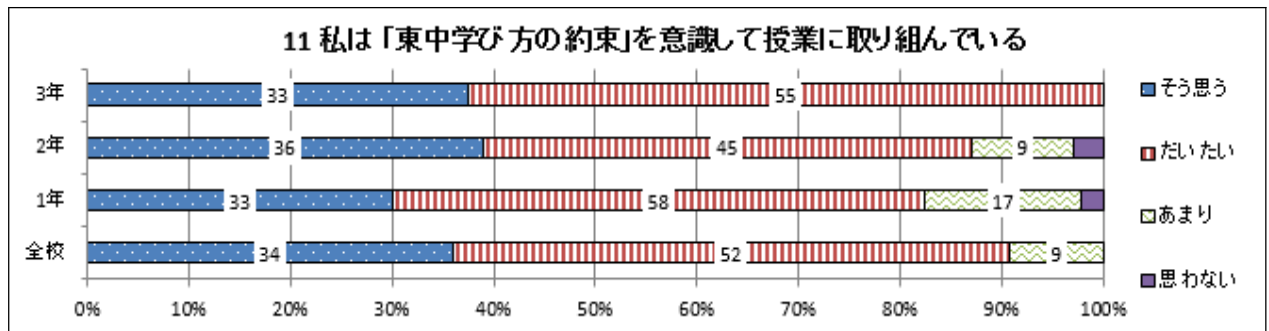
R4

3.49

↓

R5

3.19



教師

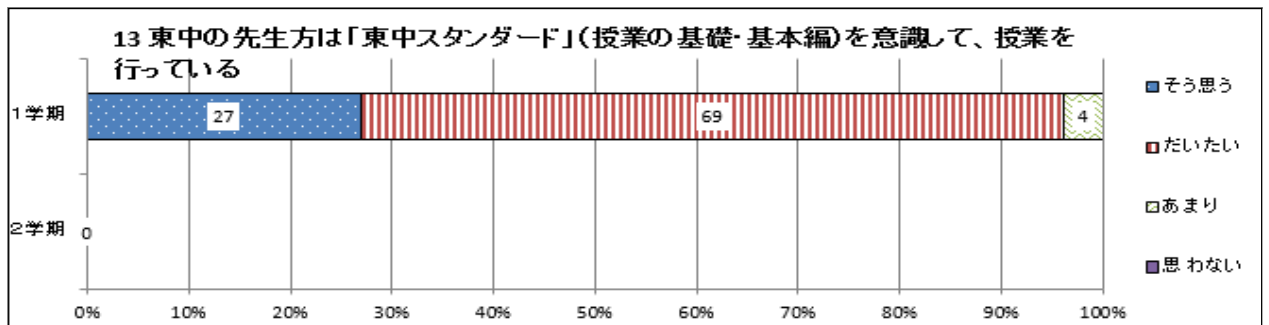
R4

3.19

↓

R5

3.23



【評価指標6】充実した家庭学習

生徒

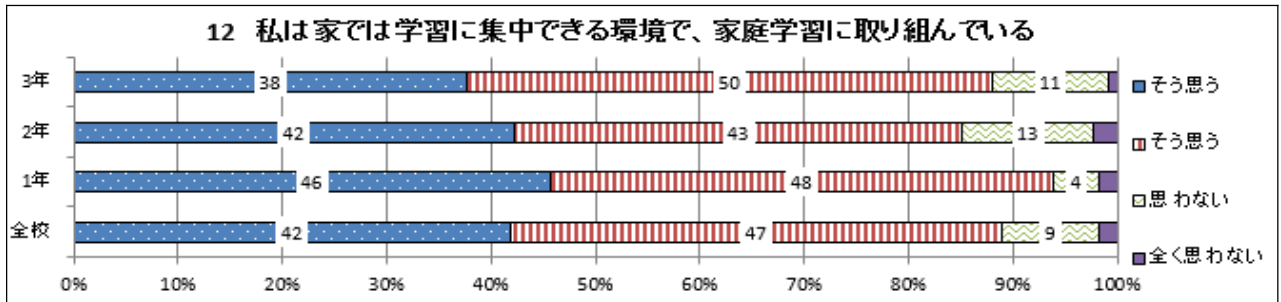
R4

3.70

↓

R5

3.29



保護者

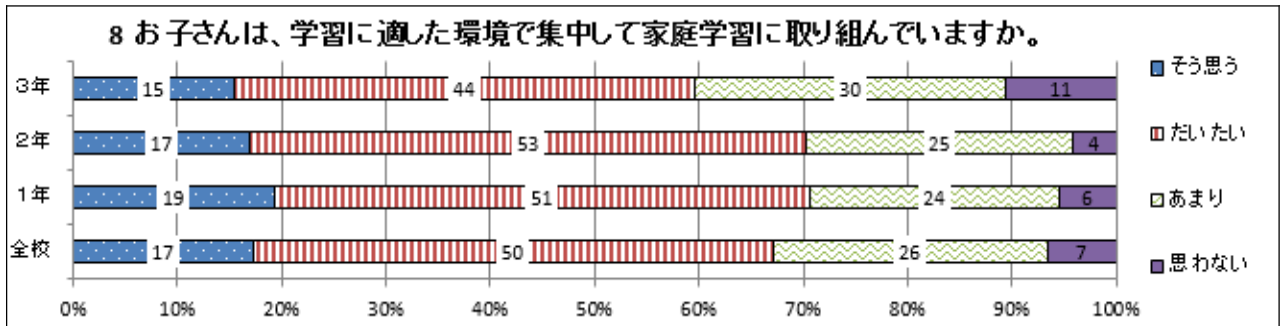
R4

2.73

↓

R5

2.78



生徒

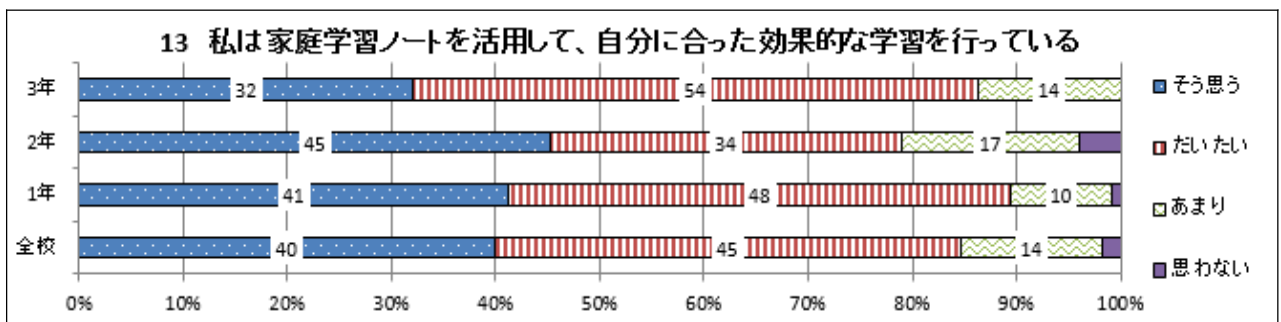
R4

3.31

↓

R5

3.23



IV 教師の研修

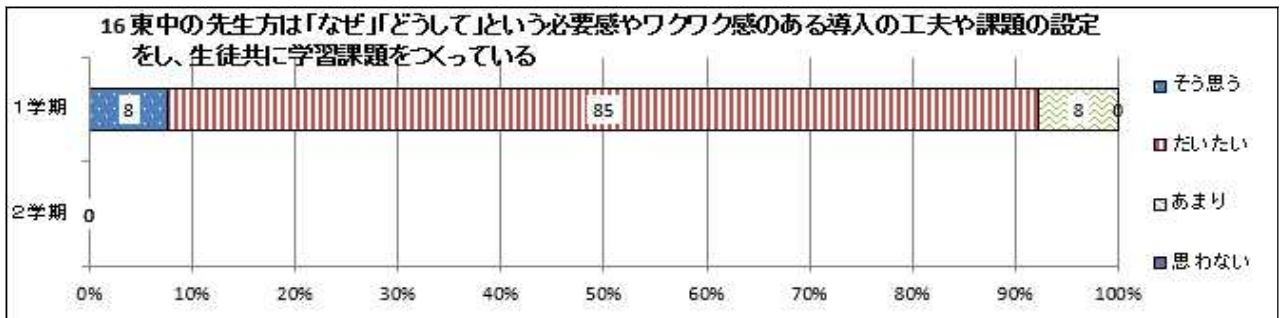
学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の研究課題の解決に取り組むとともに、自らの指導力を高めるための研修に努め、指導力の向上が図られている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	生徒の学びに向かう姿勢がよかった。また、先生方の表情もよかった。後期に向けて、研究主任を中心に研修を重ね、さらに先生方の資質能力を向上させてほしい。
	後期			

自己評価 の概要 と改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>今年度も、4月の学習集会において「鳳凰タイム」について、教師と生徒で共通理解し実践してきた。教師質問項目14の「鳳凰タイムにより、生徒の学び合い、高め合いを引き出している」には88%が肯定的な回答をしている。しかし、去年の数値から下がっていることから、鳳凰タイムをただ行うだけでなく、より効果的な学び合いの場にしたいという教師の思いが生まれていることがうかがわれる。生徒の主体的な学びを創る授業づくりの核となる「鳳凰タイム」の実践に力を入れ、学ぶ楽しさや喜びを味わいながら、確かな力を身に付けさせる授業を全職員一丸となって目指したい。</p> <p>5月の校内研修会では、共通実践事項である「魅力ある導入の工夫」「鳳凰タイムの深化」について研修を行った。教師質問項目18、20の「研究部報、外部の研究会の報告や情報、自校の研修会で学んだことを指導力の向上に生かしている」や「授業を振り返り、課題を把握し、授業改善につなげようとしている」の数値は、どちらも肯定的な回答が100%であった。授業改善に積極的に取り組みたいという教師集団の気概を大切にしながら、今後も教科の枠を越えて研修を進めていきたい。</p>
	<p>【年度（→次年度）】</p>

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 授業改善の推進	(10) 単元構想力の向上 魅力ある導入の工夫	各教科の見方・考え方を生かした授業構想 諸検査データの分析と活用	3	
	(11) 共感的・協働的な学びの追究	教師のコーディネート力の向上 鳳凰タイムの深化 振り返りの充実		
8 研修の実施及び活用	(12) 研究会を通しての指導力の向上	研修成果の情報提供 効果的な研究会の実施	3	
	(13) 各教科での取組の共有	教科部会の充実 教科部会と学年部会の連携		

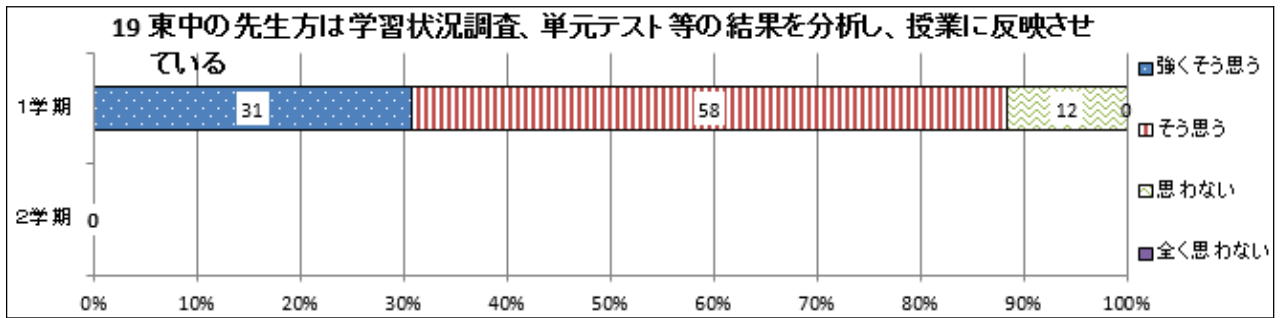
【評価指数7】授業改善の推進

教師
R4
3.12
↓



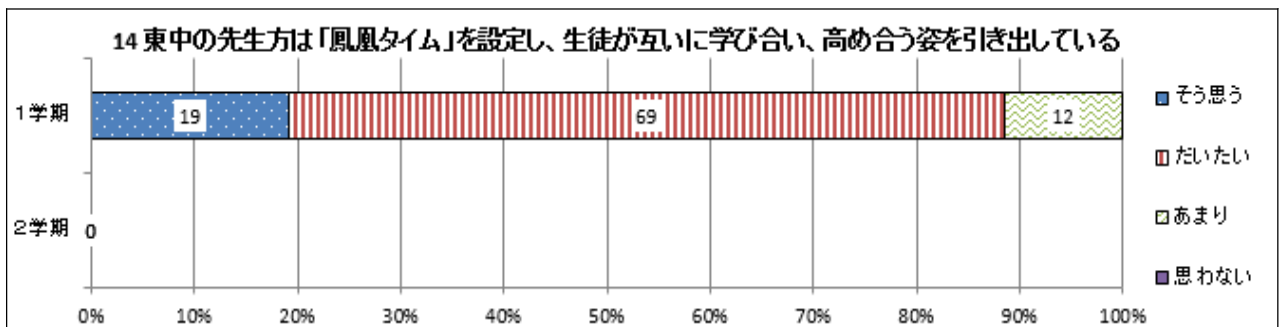
R5
3.00

教師
R4
3.50
↓



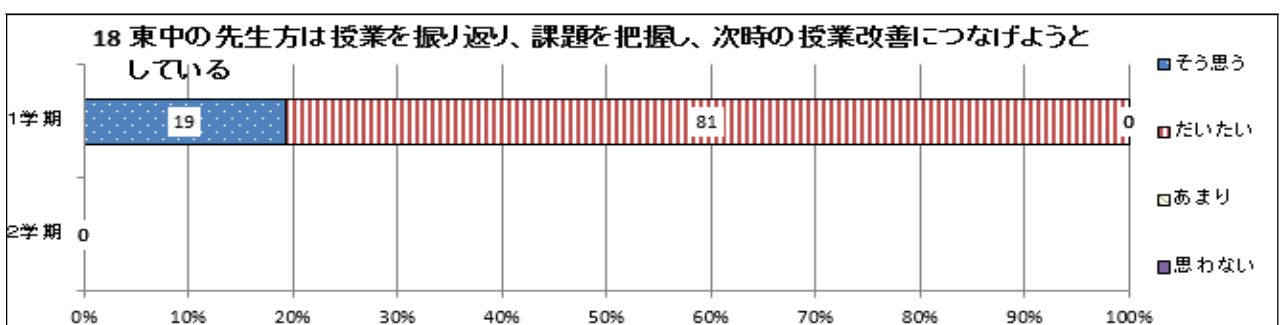
R5
3.19

教師
R4
3.70
↓



R5
3.08

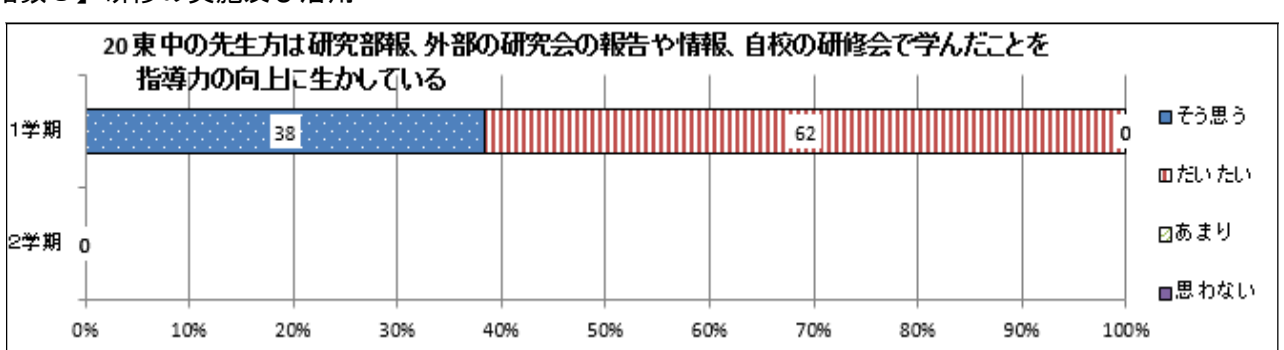
教師
R4
3.04
↓



R5
3.19

【評価指数8】研修の実施及び活用

教師
R4
3.40
↓



R5
3.38

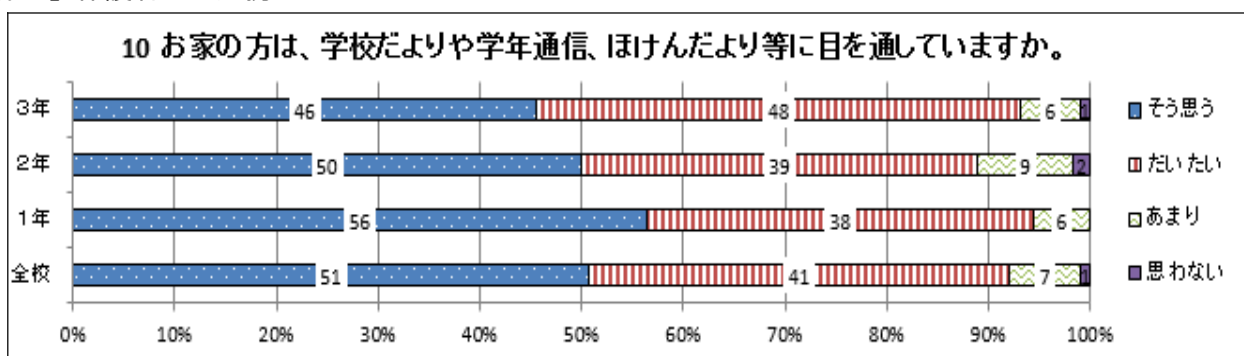
V 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が効果的に活用されている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	地域人材や地域の企業や施設などをさらに活用して欲しい。そのためにも地域支援コーディネーターや学校運営協議会と協力し、チームとして取り組み、学校や地域の活性化に期待したい。
	後期			
自己評価 学校の改善策	【前期（→年度）】 保護者質問項目10の「お家の方は、学校だよりや学年通信、ほけんだより等に目を通していますか」については、肯定的な回答が全校で92%であり、学校や学年の様子が概ね伝わっている状況にある。現在の保護者のスマートフォン所持率はほぼ100%と考えられる。今後は紙媒体での配付と、メール配信システム利用しデータでの配信をすることで、さらに保護者の目に届くと思われる。 保護者質問項目11の「PTAは主体的に活動している」については、肯定的な回答が全校で93%であり、昨年度よりも数値が上がっている。コロナ禍で活動が制限されていることもあるが、運動会の早朝作業にはPTA会長の声かけで数名の保護者が集まってくださった。2学期は昨年度からPTA保体部が主催した「ちょっとボランティア」などがあり、ますますPTA活動の充実が期待される。 教師質問項目24、保護者質問項目12の「学校は、地域人材の活用、職場体験・訪問等、地域と連携した活動に取り組んでいると思いますか」については、肯定的な回答が教師が90%、保護者が全校で98%であり極めて良好である。今年度は、PTA親子講演会に本校保護者でもいらっしゃる鳥潟幸夫様に講演していただいた。気象予報士・防災士の鳥潟様に大館の気象について講演していただいたことは生徒、保護者に大変好評であった。今後も、地域人材を積極的に活用していきたい。また、2学期の行事でもある東中ボランティアを通し、地域貢献やボランティアの意義を理解させながら、東中生が地域を活性化する活動に取り組ませたい。			
	【年度（→次年度）】			

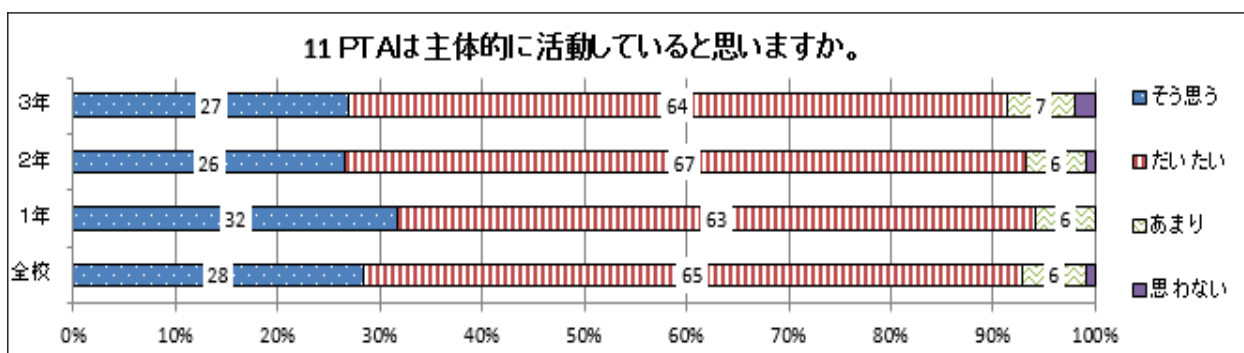
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 保護者との連携	(14) 教育方針や教育活動についての効果的な発信	教育活動等が見える各種だよりの発行 ホームページ、連絡メールの活用	3	
	(15) 行事や諸活動の工夫	保護者の活動を通じた協力体制づくり 保護者の主体的な活動のための支援		
10 地域の教育力の有効活用	(16) 地域学校協働本部事業等を生かした教育活動	地域人材の効果的な活用 学校と地域住民等との双方向の連携 地域コーディネーターの活用	4	

【評価指標9】保護者との連携

保護者
R4
3.47
↓

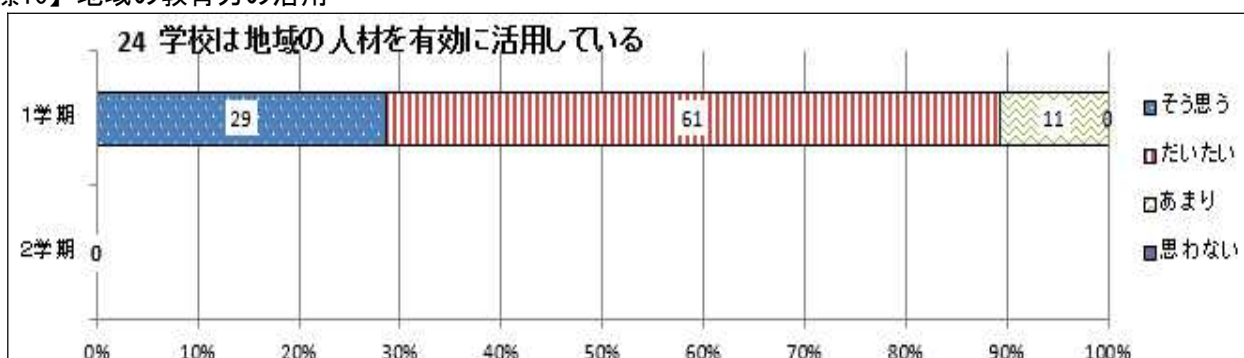


保護者
R4
3.17
↓
R5
3.20



【評価指標10】地域の教育力の活用

教師
R4
3.15
↓
R5
3.19



保護者
R4
3.38
↓
R5
3.40

